英国、釈放された一部の受刑者にパブ立ち入りを禁止へ

当局は、外出禁止時間、電子タグ、GPS監視を用いれば、混雑したイベントから受刑者を遠ざけることもできるとしている。

2026年10月2日（金）



英国政府は木曜日、刑務所から釈放された受刑者に新たなライセンス条件を課すと発表した。これには、パブへの立ち入り、大規模な公開イベントへの参加、さらに再犯のリスクを高めると判断されるその他の場所への立ち入り禁止が含まれる。

司法省は、これらの措置は再犯を減らし、受刑者を有害な行動を引き起こしかねない環境から遠ざけることで公共の保護を強化することを目的としていると述べた。計画では、ライセンス下の受刑者に外出禁止時間、電子タグの装着、GPS技術による位置追跡が課される可能性もある。英国の制度では、ライセンスでの釈放とは、刑期満了前に受刑者が刑務所を出る一方、地域社会で厳格な監督下に置かれ続けることを意味する。

同省によると、制限は個別事案ごとに調整され、早期釈放が認められた受刑者に適用される。保護観察官が警察と連携し、監視技術の支援を受けながら遵守状況を監督する。受刑者が条件に違反し

た場合、その者は直ちに刑務所へ戻される可能性があると同省は述べた。

政府はこの一連の措置を、英国でこれまでに導入された中で最も厳しいライセンス制限だと説明した。この評価は司法省によるもので、同省は警察および保護観察サービスと連携して方針を策定し、過去の監督プログラムからの教訓も踏まえたと述べた。また、同省はこの政策が再犯に対する世論の懸念に応えるものだとも説明した。

発表では、すべてのケースについて完全な運用詳細は示されなかったが、当局が場所ベースの制限をより広く活用したい考えであることは明確だった。対象にはパブやクラブだけでなく、サッカーの試合や、緊張、アルコール使用、大人数の中での匿名性が監督を難しくしかねないその他の混雑イベントも含まれうる。省は、過去の行動や、新たな犯罪の可能性を高める状況に関連する環境に受刑者が戻るのを防ぐことが狙いだとしている。

この政策は、犯罪対策と受刑者管理についてより厳しい姿勢を示そうとする政府の広範な動きの一環である。閣僚らは、拘禁から釈放された人々が厳重に監視されていることを国民に示すよう継続的な圧力にさらされており、特に早期釈放の判断が政治的な精査を受ける場合はその傾向が強い。詳細なライセンス条件とより厳格な執行に焦点を当てることで、政府は刑務所からの釈放には地域社会での統制強化が伴うことを示そうとしている。

この動きは、政府が商業面を前面に出して政策を打ち出したわけではないものの、飲料・ホスピタリティ業界の事業者にも実務上の影響を及ぼす可能性がある。パブ、バー、クラブ、その他アルコールを提供する施設は、既知の高リスク人物が関与するケースで、明確な警備手順と地元警察との緊密な連携を維持する圧力が強まるかもしれない。地域によっては、立ち入り禁止の顧客や、ライセンス条件で参加が制限されているイベントをめぐり、より高い警戒を求められる可能性がある。日常業務への影響の大きさは、地元の保護観察チームと警察がどのようにルールを実施するかに左右されるだろう。

飲料業界にとってこの政策が重要なのは、パブとクラブが一部の受刑者の立ち入り禁止対象として具体的に挙げられているためだ。木曜日に公表された情報だけでは、これはすべての施設に一般的な新たな法的義務を生じさせるものではないが、個別に制限を受ける受刑者がいる場合、職員研修、事案報告、当局との連携の必要性を高める可能性がある。業界団体や施設運営者は、ルールが実際にどのように運用されるのかを示すより詳細な指針を注視するとみられる。

司法省は発表の中で、新たな条件の対象となる受刑者がどれほどの数に上る見込みか、あるいはこの政策がイングランドとウェールズ全域でどの程度の速さで適用されるのかについては数字を示さなかった。また、どの犯罪やリスク区分がパブや大規模イベントへの禁止につながることが最も多くなるかを示す内訳も公表しなかった。裁判所、保護観察チーム、刑務所当局が個別案件でより厳しい条件を使い始めるにつれ、こうした詳細は重要になる可能性がある。

それでも、政府の核心メッセージは明確だった。ライセンス条件付きで釈放される受刑者は、移動先に対する制限が広がり、行動の監視はより厳しくなり、ルールを破ればより迅速な措置が取られる。政府は、この組み合わせが再犯の機会を減らし、拘禁から出た人々が厳格な管理下に置かれ続けているという安心感を高めることを狙っているとしている。